東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年４月１１日　第２号

例年に比べ、桜の開花が早かったこともあり、年度始めに見られる学年・クラスの写真撮影の風景は、「桜の花をバックに」というより「新緑を背に」という印象でした。４月１０日には新入生オリエンテーションも行われましたが、生徒会や部活動の説明を受け、その後、自分の興味のある部活動の見学をしていました。活気が戻ってきた感のある学校ですが、このまま雰囲気のよい学校であり続けてほしいと思います。

なお、改めて、以下に新入生へのメッセージを掲載しますが、大東中生全員が悔いのない時間を自らの手で創ってほしいと思います。

新入生へのメッセージ

今、こうして、新しい制服に身を包み、とても立派な態度で入学式に臨んでいる７３名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。心から皆さんの入学をお祝いするとともに、皆さんと巡り会えたことを、たいへんうれしく思います。

新入生の皆さんを加え、大間々東中学校の生徒は、全員で２４７名となりますが、期待と不安を胸に中学校生活を始める皆さんに、二つのお話をしたいと思います。

一つは、「未来のことを見据えながら、その日、その一日を大切に過ごしてほしい」ということです。

皆さんは、これからの中学校生活の中で、各教科の学習や部活動、学校行事などに取り組んでいくことになります。それは、将来、社会に出ていく時に必要となる、基礎的・基本的な力を身に付けるためです。しかし、言うまでもなく、そういった力はすぐには身に付きません。どうしたらそういった力を着実に高めていくことができるのか。それは、自分が将来どんな人になりたいのかをイメージしながら、その日、その一日を、よりよい一日をにしていく。その積み重ねしかないのだと思います。

「千里の道も一歩から」「ローマは一日にしてならず」。そんな言葉もあります。前向きな気持ちを常に持ち続けることは簡単ではないけれど、今日一日を楽しみながら、そして、コロナ禍が教えてくれたように、勉強やスポーツに取り組めることがどれだけ有り難いことかを感じながら、「今日も満足できる一日だった」、と言える日々を自分で創ってほしいと思います。そして、その充実の積み重ねが自分の望む未来につながっていると信じて、日々を過ごしてほしいと思います。

二つ目は、「受け身ではなく、自ら進んで」ということです。

皆さんの中学校生活は今日始まったばかりですが、これからの３年間の中学校生活の中で最も考えなくてはならないことの一つは、自分の進路についてです。高校へ行く人もいれば、社会人としての生活を始める人もいるかもしれません。つまり、高校へ行くのも、社会へ出るのも、最後は自分で方向を決め、自分の道は自分で切り拓いていかなくてはならない、ということです。

自分が希望する道に進むために、人に言われなくても「自分の頭で考え、自ら進んで行動する」。そんな力がこれまで以上に求められています。

これだけ世の中が複雑化している時代を生きていく皆さんが、自分らしくあるためには、人から与えられたものをこなすだけでは、十分ではありません。失敗を恐れず、受け身ではなく、自ら進んで物事に取り組んでほしいと思います。

そのためにも「あれは嫌だ、これも嫌だ」「面倒くさい」「どうせ無理」。そんな言葉ばかり発するのではなく、「今度はこれに挑戦してみよう」「一緒に頑張ろう」。そんな言葉を日頃から意識して使える人でいてほしいと思います。

新入生の皆さん、３年間という月日は、あっという間に過ぎ去っていきます。

今日から、新たな希望を胸に、そして、中学校を卒業した後のことまで考えながら、この３年間の生活を、自らの手で素晴らしいものにしてほしいと思います。

新入生の皆さんの中学校生活が活気に溢れ、悔いのない３年間となることを願って、式辞といたします。